

御霊に満たされなさい

エペソ人への手紙 5 章 18 節

はじめに

今日は、「ペンテコステ」です。ペンテコステとは、ギリシヤ語で「五十番目」という意味で、イエス様の復活を記念するイースターから「五十日目」にあたります。「クリスマス」「イースター」「ペンテコステ」は、キリスト教の三大祝祭日となっています。

なぜ「イースター」から五十日目にお祝いするのでしょうか？それは、この日に、「御霊」とも呼ばれる「聖霊」がこの地上に遣わされたからです。私たちが信じる唯一の真の神様は、三位一体の神様です。神様はただお一人ですが、父なる神様とイエス様と聖霊という三つの人格を持っているのです。父なる神様も神であり、イエス様も神であり、聖霊も神である、しかし神様が三人いるのではなく、ただ一人しかおられないというのが、「三位一体」ということです。

二千年前に、神の子であるイエス様が人となってこの地上にお生まれになったのを祝うのが「クリスマス」です。イエス様は私たちの罪を償うために、私たちの代わりに十字架に架かり死なれましたが、三日目に死からよみがえられました。この死からの復活を祝うのが「イースター」です。

イエス様は、死からよみがえれて四十日後に、天に昇られました。そして、父なる神様の右の座に着かれました。イエス様は、天に昇られてから十日後、つまり死からよみがえられてから五十日目に、父なる神様と共に聖霊をこの地上に遣わされました。この聖霊が私たちのもとに遣わされたことを祝うのが、「ペンテコステ」です。

「ペンテコステ」の日、使徒ペテロはエルサレムで説教を語りました。すると三千人もの人がイエス様を信じ、洗礼を受けたのです。そして、この日からエルサレムに「教会」が誕生したのです。

聖霊は、私たちに罪を示し、私たちの心に信仰を与えます。イエス様を信じるように、私たちの心を説得するのも聖霊の働きです。そして、イエス様を信じた後の私たちのクリスチャンとしての人生を導いてくださるのも聖霊です。聖霊は、いつも私たちと共にいて、私たちを励まし、慰めてくださるのです。そして、私たちをイエス様に似た者となるように、日々成長させてくださるのです。教会の活動も、聖霊の働きなくして語ることはできません。聖霊は、私たちに、イエス様を証しする力を与え、宣教の活動を導いてくださるのです。また聖霊は、私たち一人ひとりに賜物を与えてくださって、教会を建て上げてくださるのです。

しかし聖霊は、目に見えない方ですので、私たちと共におられると言われても、なかなか実感が湧かないかもしれません。ですから私たちはすぐに、聖霊が私たちと共におられるこ

とを忘れてしまいます。そして、聖霊に信頼するよりも、他のものに信頼してしまいます。目に見えるものに信頼し、それらに助けを求め、それらから慰めと励ましと導きを得ようとしてしまうのです。

1. ぶどう酒に酔ってはいけません

今日の聖書箇所では、私たちが聖霊ではなく、他のものに信頼してしまうその代表として、ぶどう酒（アルコール）が挙げられています。クリスチャンは比較的あまりアルコールを飲まないかもしれません。特に私たち日本長老教会を含む日本の「福音派」と呼ばれるグループのクリスチャンは、比較的アルコールを飲まない傾向があります。

しかし決して、アルコールそのものが悪いわけではありません。使徒パウロは、Ⅰテモテ 4：3-4 でこう言っています。「**食物は、信仰があり、真理を知っている人々が感謝して受けるように、神が造られたものです。神が造られたものはすべて良いもので、感謝して受けるとき、捨てるべきものは何もありません**」。アルコールも、神様に感謝して飲む時、それは良いものなのです。イエス様も、水をぶどう酒に変える奇跡を行なって、結婚式に集まった人たちにアルコールを振る舞われました（ヨハネ 2：1-11）。イエス様がもし、アルコール自体を悪いものだと考えていたら、このような奇跡は行わなかったでしょう。パウロも、テモテ 5：23 に対して、病気のために少量のぶどう酒を飲むように勧めています（Ⅰテモテ 5：23）。イエス様が世の終わりまで守るようにと定めた聖餐式も、ぶどう酒が用いられます。なぜ今、私たちの教会ではぶどう酒ではなく、ぶどうジュースが用いられるのでしょうか。それは、未成年でも洗礼を受け、聖餐式に与る人がいるからです。日本では、二十歳までアルコールを飲むことが禁じられています。そのことに配慮して、ぶどうジュースが用いられています。

ですから、アルコール自体が悪いわけではありません。アルコールを飲むこと自体が罪なのではありません。適度に、神様に感謝して飲むことは良いことだと思います。ですから私も、自宅ではほとんどアルコールは飲みませんが、アルコールを飲む友人と食事をする時には、1～2 杯ほど付き合いで飲みます。私自身は、もともとアルコールが苦手で、日常的に飲む習慣はありません。しかしそれは、あくまでも私が苦手だという理由で、決してアルコールが悪いものだからではありません。私が日常的に飲むのは、アルコールよりもコーヒーです。コーヒーは毎日欠かさず飲みます。コーヒーを飲まない日は想像できません。私自身にとっては、アルコールよりもコーヒーに依存しているかもしれません。

アルコールは飲み方を間違えると、私たちの人生を狂わせる危険性があります。聖書もそのことを警告しています。特に執事や年をとった婦人に対して、「大酒を飲むこと」を禁じています（Ⅰテモテ 3：8、テトス 2：3）。アルコールは、適度に神様に感謝して飲む分には良いものですが、限度を超えて飲む時、私たちの人生を狂わせることになります。

パウロは今日の聖書箇所、「**ぶどう酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです**」と言っています。ここでパウロが禁じているのは、「ぶどう酒」を「飲むこと」ではな

く、「酔うこと」です。ここでの「酔う」という言葉は、「浸す」という意味があります。ですからパウロが禁じているのは、適度にアルコールを飲むのではなく、大量にアルコールを飲み、酔っ払い、自分をコントロールできなくなってしまうような状態です。

なぜパウロは、アルコールに酔ってはいけないと言うのでしょうか。それは、「そこには放蕩があるから」だと言います。ここでの「放蕩」という言葉は、イエス様のたとえ話に出てくる有名な「放蕩息子」の「放蕩」です。パウロが「ぶどう酒に酔うこと」を禁じているのは、「放蕩息子」のようになるからです。放蕩息子は、父親からもらった財産を湯水のように使い果たしてしまいました。特に彼は遊女におぼれてその財産を使い果たしてしまったのです。彼は、性的な不品行にのめり込み、財産を浪費しました。彼は、自制する力、正しい判断力を失い、自分をコントロールできなくなっていたのです。その結果、彼は何もかも失い、命を失う寸前まで追い込まれたのです。

アルコールも一歩間違えると、私たちから何もかも奪い取っていきます。アルコールは、私たちのあらゆる感覚を麻痺させます。私たちの自制する力、理解する力、判断する力、恐れを感じる力を麻痺させます。その結果、お金を浪費させたり、性的な不品行の罪を犯させたり、人とのあらゆるトラブルを起こさせます。そして最悪の場合、私たちの人生を一瞬にして狂わせます。

アルコールは、私たちの感覚や力を麻痺させ、一時的に私たちを楽しくさせ、私たちの恐れを感じる力を取り除きます。それゆえ、多くの人がアルコールを飲むことで人間関係を築き、本音を語り合おうとします。またアルコールを飲むことで、心の虚しさ、寂しさ、怒りを紛らわそうとします。多くの人が、アルコールの力を借りて、自分自身を何とか保ち、人との人間関係を築こうとします。

2. 御霊に満たされなさい

しかしパウロは、今日の聖書箇所で、「ぶどう酒に満たされてはいけない。むしろ御霊に満たされなさい」と言うのです。ぶどう酒はあらゆる危険性を伴うけれども、御霊はそうではない。御霊は私たちの感覚や力を麻痺させるのではなく、私たちを内側から変え、私たちに力を与えてくれます。イエス様も、「**聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます**」(使徒 1:8)と言われました。アルコールは私たちの力を麻痺させますが、聖霊は私たちに力を与える方です。そして「**愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制**」の実を、私たちの人格の内に結ばせるのです(ガラテヤ 5:22-23)。

パウロは、ぶどう酒と御霊を対比させています。それはある意味で、アルコールに酔っている姿と御霊に満たされる姿が似ているからです。イエス様の弟子たちに聖霊が降ったペンテコステの日に、弟子たちは聖霊に満たされて、他国の言葉で神様の大きな御業について話し出しました。しかし、それを見た人々は、弟子たちはぶどう酒に酔っているのだと思ったのです。アルコールに酔っている姿と御霊に満たされる姿は、ある意味では似ているようです。しかし、その結果はまるで違うのです。アルコールに酔った結果は放蕩が

待っているけれども、御霊に満たされた結果は、「愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」の実が待っているのです。

3. 御霊に満たされるには？

私たちは、アルコールの助けを借りて生きるのではなく、聖霊の助けによって生きなければなりません。皆さんの中には、アルコールの助けを借りて生きている人は、あまりいないかもしれません。しかし、聖霊の助けによって生きているでしょうか？聖霊に満たされて生きているでしょうか？

アルコールの助けを借りなくても、自分の力で生きているという人もいるかもしれません。アルコールの力も借りず、聖霊の力も借りず、ただ自分の力だけで生きているという人もいるかもしれません。私たちは、ぶどう酒に酔わなければそれで良いではありません。アルコールの助けを借りなければ、それで良いではありません。私たちクリスチャンの内には、聖霊が住んでくださっているのです。その聖霊を無視して生きるのではなく、聖霊に助けられ、導かれ、満たされて生きなければならないのです。パウロは、Ⅰテサロニケ 5：19 でこう言いました。「**御霊を消してはいけません**」。またエペソ 4：30 では、こうも言っています。「**神の聖霊を悲しませてはいけません**」。私たちは、聖霊を無視して、悲しませてはならないのです。私たちは、聖霊の力に寄り頼んで生きなければならないのです。

では、私たちはどうしたら聖霊に満たされて生きることができるのでしょうか？

第一に、聖霊が私たちと共におられることを、いつも覚えることです。イエス様は聖霊についてこう言われました。「**この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです**」(ヨハネ 14:17)。聖霊は、イエス様を信じるすべてのクリスチャンと共におられ、その人のうちにおられます。パウロは「**聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です』と言うことはできません**」(Ⅰコリント 12:3) と言いました。もし私たちがイエス様を信じているなら、私たちが意識するしないに関わらず、確かに私たちと共に、また私たちのうちに聖霊がおられるのです。

第二に、聖書をよく読むことです。この地上での聖霊の大きな働きの一つは、神の言葉である聖書を残されたことです。ペテロは、聖書についてこう言いました、「**預言は、決して人間の意志によってもたらされたものではなく、聖霊に動かされた人たちが神から受けて語ったものです**」(Ⅱペテロ 1:21)。聖霊は、人を用いて神の言葉である聖書を私たちに残し、その聖書の言葉を用いて、私たちに罪を示し、信仰を与え、慰め、励まし、私たちをイエス様に似た者へと成長させ、私たちの内に人格的な実を結ばれます。聖霊は、ご自身が書かれた神の言葉である聖書を通して、私たちの内に働かれるのです。

おわりに

イエス様は、「**わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません**」(ヨハネ 14:18)と言われまし

た。私たちは、自分の力でクリスチャンとして生きることが求められているではありません。また教会は、自分たちの力で宣教し、教会を建て上げるではありません。イエス様は私たちに、「助け主」を与えてくださいました。それが「聖霊」です。聖霊は、私たちの人生の歩みを、そして私たちの教会の働きを助け、導いてくださるのです。

私たちは決して、聖霊を消したり、悲しませてはなりません。アルコールの力に頼ったり、自分の力に頼ったりしてはなりません。そうではなく、与えられた「助け主」である聖霊の力により頼み、聖霊に助けられ、導かれ、満たされて歩もうではありませんか。

天におられる私たちの父なる神様。

イエス様が天に昇られた後、あなたとイエス様は、私たちを見捨てず、私たちに「助け主」である聖霊を与えてくださいました。私たちは、聖霊によらなければ、自分の罪を認めることも、イエス様を信じることもできません。また人格的な実を結ぶことも、イエス様に似た者へと成長することもできません。また人々を救いに導く宣教の働きも、教会を建て上げる働きも、聖霊によらなければできません。

どうか、私たちと共に、また私たちのうちにおられる聖霊を消したり、悲しませたりすることなく、聖霊の力に寄り頼み、聖霊に導かれ、聖霊に満たされて歩むことができますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。